

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人都筑福祉会
施設名	ひよし保育園
報告者（役職）	泉田美恵子（園長）
住所・連絡先	神奈川県川崎市幸区南加瀬 2-9-20
	☎044-588-3555 E-mail hiyoshi@yamata.org

○タイトル（保育計画）

園庭であそぼう 遊具で遊ぼう 稲とメダカを育てよう

○主な助成備品

トンネル（ロープ）遊具施工 ビオトープ施工 田んぼ土

1. 保育計画策定の目的

1-1 遊具で遊ぼう

神奈川県における子どもの体力測定は全国最低水準にあり、系列園において運動指導を仰いでいる横浜体操クラブの指導者からは、「ぶら下がる」あるいは「くぐる」といった動きが不足しているとの指摘を受けている。

現在の木造遊具に縄（ロープ）を組み合わせて運動能力をより伸ばせるようにする。



1-2 稲とメダカを育てよう

施設によってはバケツやバットを用いて行っているものである。外構工事などで環境を整備することにより、より豊かな生態系を提供したり、子どもの動線をより計画的なものに配置することができる。

より豊かな環境を整備している系列園の取り組みでは、トンボが卵のうみつけにやってきました、アメンボがきたり、より多くのバッタがみられる。稲わらができるので、ツバメもやってくる。このため、子どもたちにより多くの気づきの機会を提供することができる。

2. 具体的な実施内容

2-1 運動遊具で遊ぼう

毎日の園庭遊びを通じてぶら下がったり、トンネルをくぐったり、トンネル上部に登ったりと年齢を問わずに自由に運動遊具を使って遊びました。保育士は安全面への配慮をしながら子どものやりたいという気持ちや意欲を大切に、見守りながら苦手な子に対しては体の使い方を指導しました。また、クラス保育の取り組みでは一人一人が得意なことを友達の前で披露したり、ぶら下がりなどは個々の目標タイムに挑戦したりし、次への意欲が持てるような声かけをしました。



2歳児のぶら下がり



くぐっても登っても自由



サーキット方式で一通り挑戦

2-2 稲を育てよう

園庭の一角に手作りの3畳ほどの田んぼを作りました。黒土70袋を入れて出来た田んぼは子ども達にとって最高のどろんこ遊びの空間になりました。まず、裸足になりドロドロした土の感触を体感しました。黒土のため墨汁のような泥水のせいか一瞬躊躇した姿がみられましたが、すぐになれたようでダイナミックなどろんこ体験を楽しむ事が出来ました。



泥んこ遊びの様子

どろんこ遊びからスタートした田んぼで、田植えの体験や稲の花の観察、稲刈りや素手で脱穀、ボールを使っての精米などたくさんの体験が出来ました。



田植えの様子



稲刈り



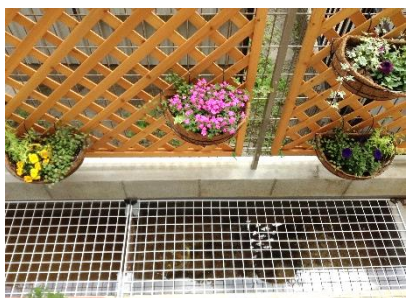
道具を使わず素手で脱穀



野球ボールを使って精米

2-3 メダカを育てよう

おたまじゃくしを放しカエルになるまでの成長観察や、メダカの産卵を発見したことからメダカの孵化や稚魚の成長を観察することができました。子ども達は100匹以上生まれたメダカの赤ちゃんに大喜びでした。小さなビオトープですが、生き物が生息できる環境が出来たことで、こども達にとってのたくさんの気づきや発見の場となりました。



餌やりしながら金魚の観察



カエルの観察画 (4歳)

3. その成果と評価

既存の木造遊具にロープ、鉄の棒、ロープのトンネルが加わった事で、毎日の園庭遊びのなかに「くぐる」「ぶら下がる」の動作が取り入れられるようになりました。特に5歳児は遊びのなかに「ぶら下がる」「綱を渡る」「くぐる」動きに必要な体の使い方やバランス感覚を養い、また筋力をつけるなどの運動能力をより伸ばせるよう働きかけてきました。

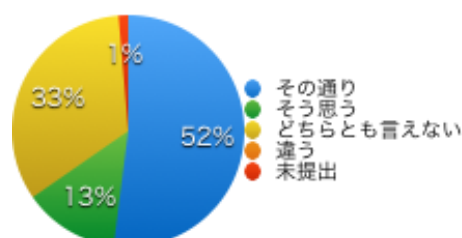
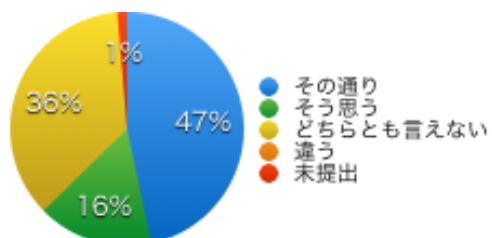
その成果もあり運動会では全員が竹馬に乗れるまでのバランス感覚が養われました。



CSアンケート（日本能率協会総合研究所）の結果

【体を動かして遊ぶことが増えた】

【園庭や動植物など自然環境が良い】



上記結果のように「その通り」「そう思う」を合わせ、全体の60%以上と高い数値が見られました。また保護者からは下記のようなコメントが寄せられました。

- ・ 体を動かす遊びや生き物など、興味はあるものの苦手意識が強かった事に対して自然に取り入れられている為、嫌がる事もなく自然に受け入れられたようです。
- ・ 今年は田植えの体験ができてとても良かったと思います。家ではできない事をさせていただき、娘も日々成長できて親として嬉しいです。
- ・ 園庭の芝や田植え、ビオトープなどいろいろな体験を通し生き物に興味を持ちました。
- ・ 遊具は遊びがとても工夫されていて面白いと思いました。虫や魚が見られ、子供にとって良い環境だと思っています。

4. 今後の課題と展望

「より多くの子供たちに安全・安心な保育環境と、健やかな心と体を育み、豊かな想像力を養う機会」を提供することを目的とした貴事業の支援のお陰で、当園では生き物が生息する環境や運動機能を伸ばすための環境を子ども達に提供することができました。

今後も継続し、遊びの中で「ぶら下がり」、「綱渡り」「くぐる」動きに必要な体の使い方やバランス感覚を養い、筋力をつける成果をあげていきます。また、発達指標の運動の項目において、平均を上回る結果に繋げていきます。

また、メダカの飼育を通しては、産卵や孵化、稚魚の成長を観察することができ、大変良い環境が整いました。田んぼやビオトープのある環境を維持し、日常生活のなかで「環境」を通じて、知的好奇心を育むとともに、そこから「表現」や「言葉」の領域へと繋げていきたいと思いをします。

以上